



背景と目的

伝統芸能「能」

- 謡や舞，囃子によって構成される舞台芸術
- 能の実践に伴って特有の身体技法が獲得される
 - 表現の際の呼吸パターン (Homma et al., 2006) など
 - しかし，心理的な側面にも変容をもたらされるかは不明

伝統芸能「能」およびその代表的な役割



シテ方 shite-kata
・謡，舞による表現

囃子方 hayashi-kata
・楽器による表現

内受容感覚 interoception

- 身体内部の生理状態に関する感覚 (Craig, 2002)
- 感情経験・感情制御等に重要な役割 (Barrett, 2017)
- 意識的な側面：interoceptive sensibilityとも呼称
- バレエ，声楽，弦楽器等，芸術活動の実践者は高い内受容感覚を有する (Christensen et al., 2018)
 - 感情表現を目的とした身体へのアクセスにより内受容感覚への気づきが促進される可能性

目的

能の実践に伴う内受容感覚の変容について検討

方法

参加者 (有効データ)

- シテ方 10名 ($M_{age} = 45.60, SD_{age} = 12.29$), 囃子方 12名 ($M_{age} = 47.50, SD_{age} = 10.85$), 非実践者 18名 ($M_{age} = 40.50, SD_{age} = 6.85$), 全員が男性

主な尺度

- Interoceptive Accuracy Scale (IAS)**
 - 内受容感覚の**正確さ**に関する信念
 - 項目例：「心臓が速く鼓動しているとき，いつも正確に気づくことができる」
- Interoceptive Attention Scale (IATS)**
 - 内受容感覚への**注意**に関する信念
 - 項目例：「大抵，私の注意は，心臓が速く鼓動しているかどうかに向いている」
- パーソナリティ (外向性・神経症傾向・開放性；小塩他, 2012) や能の経験年数

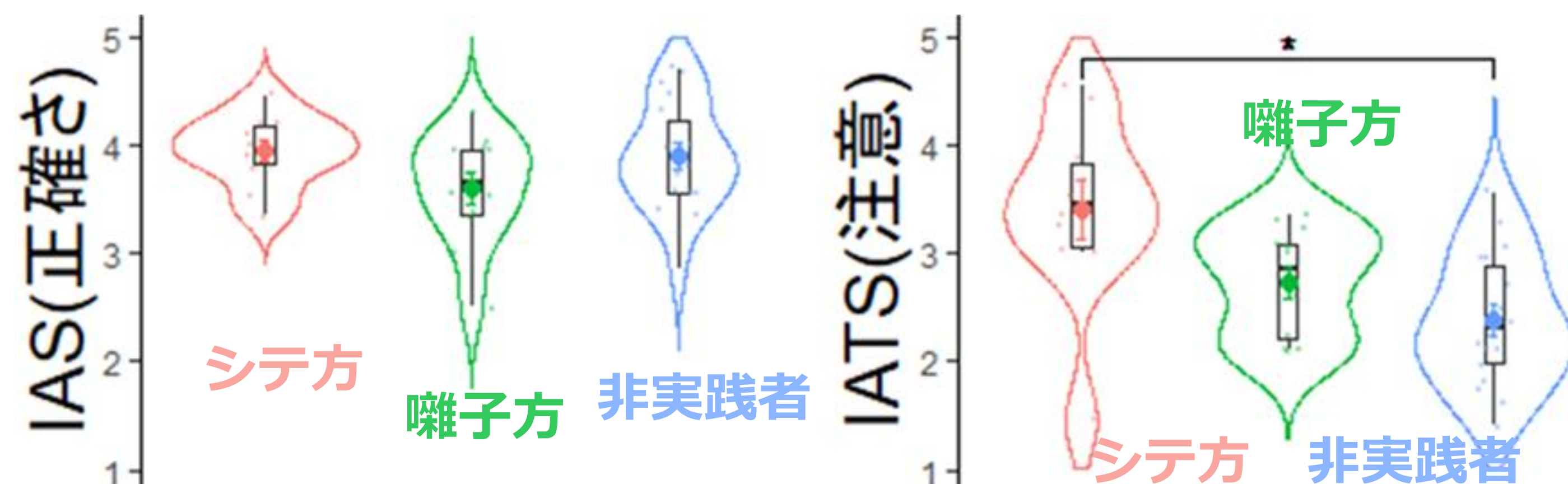
手続き

- 実践者には紙媒体で，非実践者にはオンラインで回答を求めた

結果

群間差

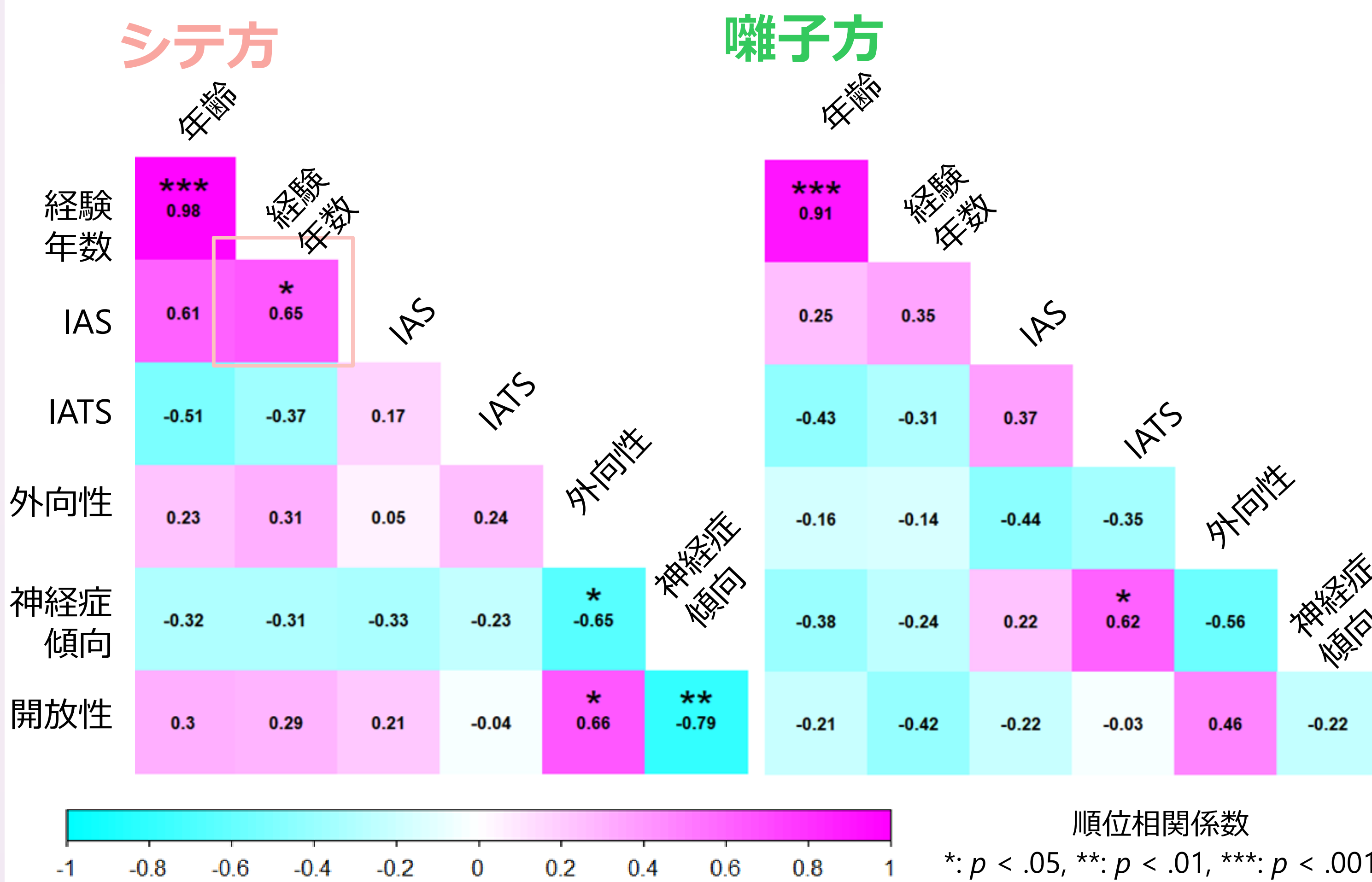
- IATS得点：**シテ方 > 非実践者**
($F = 8.13, p < .001, \eta^2p = .305; t = 3.34, p = .015, d = 1.38$)
- 年齢・IAS・パーソナリティ：非有意
($F_s \leq 1.94, p_s \geq .158, \eta^2p_s \leq .095; H_s \leq 5.95, p_s \geq .051, \eta^2[H]_s \leq .107$)



* : $p < .05$

経験年数との相関

- シテ方**：IAS得点と中程度の正の相関
($r = .65, p = .04$)



考察と結論

能の実践者は高い内受容感覚を有する

- シテ方 (全身運動による表現) において特に顕著
- 身体のみより広範囲からの情報を処理することがより大きな影響をもたらした可能性

能の経験との関連パターンは尺度ごとに異なる

- IAS (正確さ) 得点は経験年数に伴い向上，IATS (注意) 得点には有意な群間差
- ほぼ全員が経験20年以上の熟達者だったことによる天井効果や，内受容感覚の側面ごとの可塑性の違いが反映された可能性

展望

- 行動指標や状態的指標による内受容感覚の測定
- 縦断調査などによる因果関係の検討
- 実際の能のパフォーマンスへの影響